

## «2025年 6月 限定サロン（通算 344回）報告»

\*\*\*\*\*

# 2025 総会後の意見交換会 —2025 年度の公開シンポジウムを中心に—

\*\*\*\*\*

【日 時】2025年 6月 14 日（土）16：30～17：50

【会 場】千代田区平河町二丁目 16 番 1 号平河町森タワー12 階事務所およびオンライン（Zoom）

【テーマ】2025 総会後の意見交換会—2025 年度の公開シンポジウムを中心に

【参加者（7名）】◎は NPO 会員、○は会員外のファミリー

<対面（3名）>

◎関秀忠（弁護士／理事）、◎茅野英一（元帝京大学かながわクラブ）、◎中塚 義実（理事長）、

<オンライン（4名）>

◎笛原勉（日揮台北支店長）、◎橋和徳（富山中部高校／理事）、◎土谷享（KOSUGE1-16／理事）、  
◎本多克己（株シックス／副理事長）

【報告書作成】中塚義実

【概要（理事長より）】

特定非営利活動法人サロン 2002 の通常総会（15：00～16：30 予定）後に、恒例の意見交換会を行います。NPO 会員だけでなく、多くのサロン 2002 ファミリーにお集まりいただき、「2025 年度（以降）の事業」と「持続可能な組織のすがた」を考える場にできればと思います。

1. サロン 2002 の事業—何を、どのように行うか

（第 10 回 U-18FLCC や公開シンポジウム①②など、2025 年度に予定されている各事業を中心に）

2. サロン 2002 の組織—仲間の輪を広げ、深めるには？ 担い手は？

（財務構造の見直しと人材の育成・活用を中心に）

3. その他

総会での議論の継ぎになると思います。会員外のサロンファミリーの皆さんも、総会にオブザーバーとして出席されるとよいでしょう。遠慮なくご参加ください。

【令和 7（2025）年度 特定非営利活動法人サロン 2002 通常総会】

1. 日時 令和 7（2025）年 6 月 14 日（土）15：00～16：20

2. 場所 東京都千代田区平河町二丁目 16 番 1 号平河町森タワー12 階事務所&オンライン（Zoom）

3. 決議事項

第 1 号議案 令和 6（2024）年度 事業報告

第 2 号議案 令和 6（2024）年度 決算 および 監査報告

第 3 号議案 令和 7（2025）年度 事業計画

第 4 号議案 令和 7（2025）年度 予算

第 5 号議案 その他運営に関する重要事項（サロン 2002 ファミリーの年度更新関連手続の承認）

【出席（18名）】

・対面（4名）…木田圭亮、関秀忠、茅野英一、中塚義実、

・オンライン（8名）…熊谷建志、小池靖、齊藤宣彰、笛原勉、橋和徳、土谷享、本郷由希、本多克己

【委任（6名）】議長 3 名、中塚 3 名

石原俊秀（議長）、嶋崎雅規（中塚）、高原涉（中塚）、仲澤眞（議長）、松下徹（議長）、柳井隆志（中塚）

正会員 24 名のうち 18 名が出席（2024 年度は 19/23、23 年は 23/27、22 年は 21/29、21 年は 18/29）

参考) 会員外のサロン 2002 ファミリーは、54名  
サロン 2002 ファミリー（含 NPO 会員を含む全体数）は、  
現時点で  $24+55=79$  名（2024 年度は  $23+54=77$  名、2023 年度は  $28+61=89$  名）

2024～2025 年度役員

理事：熊谷建志、齊藤宣彰、関秀忠、橋和徳、土谷享、中塚義実、本郷由希、本多克己  
監事：小池靖 顧問税理士：松下徹 事務局：なし

## I. サロン 2002 のあゆみと現状（中塚義実）

通常総会の審議が終わりました。ここからは、限定サロン＝意見交換会の導入となる部分について話をさせていただきたいと思います。

はじめに、サロン 2002 がどのようにはじまり、どのような過程を経ていまに至るのかをざっとおさらいし、そのうえで現状と課題、今後の方向性について、テーマを絞って意見交換します。年 1 回はこういうことを確認する必要があると考えています。

<以下、スライド抜粋>

### テーマ① NPO サロン 2002 の会員と財務構造

#### ◆ サロンファミリーの現状

1) 2022 年度総会時 96 名

・NPO 会員 29 名

・会員外のファミリー 67 名

・賛助団体 なし

・寄付金 個人件数

経常収益 3,149,703 円

経常費用 3,018,163 円

131,540 円の黒字

2) 2023 年度総会時 84 名（→89 名）

・NPO 会員 27 名（→28 名）

・会員外のファミリー 57 名（→61 名）

・賛助団体 なし（→甲文堂）

・寄付金 個人件数（→25 万円）

経常収益 3,955,010 円

経常費用 3,846,475 円

108,535 円の黒字

3) 2024 年度

・NPO 会員 23 名

・会員外のファミリー 54 名（→55 名）

・賛助団体 1 団体

・寄付金 個人件数

経常収益 3,562,181 円

経常費用 4,047,799 円

485,618 円の赤字

4) 2025 年度

・NPO 会員 24 名

・会員外のファミリー 55 名

・賛助団体 1 団体

※申し出があつて退会 5 名

梅澤佳子、春日大樹、清水瑠平、鈴木稔

賀川 浩（死亡による「資格喪失」）

※手続き未了で退会扱い 0 名

（2024 は 6 名、23 は 12 名）

## テーマ② NPOサロン2002の組織と運営

		2000	2001	2002	2003
役員	代表者	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実
	代表代行幹事	高橋義雄	高橋義雄	笹原勉	本多克己
	幹事	鈴木崇正 仲澤眞 長岡茂 堀美和子	鈴木崇正 仲澤眞 長岡茂 堀美和子	本多克己 内田正人 長岡茂 宇都宮徹志	笹原勉 内田正人 長岡茂 宇都宮徹志
	監査役	笹原勉	笹原勉	仲澤眞	仲澤眞
会計兼名簿 ML管理人 HP担当	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	
	涌田龍治	涌田龍治	涌田龍治	涌田龍治	
	本多克己	本多克己	本多・津田綾女	本多・津田綾女	

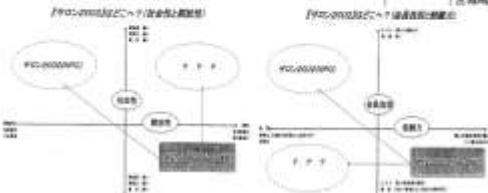
2000年度より会員制導入  
・「会費」の管理と「名簿」の発行  
→初代事務局長は川井氏  
・「ホームページ」の設置→本多氏が尽力



## 事務局は川井氏から岸氏へ

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	担当	2013
理事	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実
	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己
	安藤勉	安藤勉	高橋仁	高橋仁	高橋仁	高橋仁	高橋仁	高橋仁	高橋仁	高橋仁	高橋仁
	田中健也	田中健也	田中健也	田中健也	田中健也	田中健也	田中健也	田中健也	田中健也	田中健也	田中健也
監事	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一	安藤拓一
	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志	宇都宮徹志
	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉	高橋徹哉
	会計・名簿担当 (元一同賛成員)	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕
運営委員会	ホームページ担当 事業担当	涌田龍治	涌田龍治	涌田龍治	涌田龍治	高谷健志	高谷健志	高谷健志	高谷健志	高谷健志	高谷健志
	本多・津田綾女	本多・津田綾女	本多・津田綾女	本多・津田綾女	本多・津田綾女	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志
	麻生征宏	麻生征宏	麻生征宏	麻生征宏	麻生征宏	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志
	内藤 淳	内藤 淳	内藤 淳	内藤 淳	内藤 淳	室田真人	室田真人	室田真人	室田真人	室田真人	室田真人
事務局	中村敬	中村敬	中村敬	中村敬	中村敬	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人
	安松幹葉	安松幹葉	安松幹葉	安松幹葉	安松幹葉	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人
	高山一郎	高山一郎	高山一郎	高山一郎	高山一郎	赤尾修	赤尾修	赤尾修	赤尾修	赤尾修	赤尾修
	小池正直	小池正直	小池正直	小池正直	小池正直	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人	宮川麗人

規約を整え「理事会」設置  
川井氏から岸氏(学生)へ  
そして法人化へ



法人化以降													
NPO法人サロン2002		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
理事長	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実
副理事長	吉原 勉	吉原 勉	吉原 勉	吉原 勉	吉原 勉	吉原 勉	吉原 勉	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己
理事	安藤裕一 岸 卓巳 南嶺答理 本多克己	安藤裕一 岸 卓巳 南嶺答理 本多克己	安藤裕一 ★松下 健 高嶋哲建 本多克己	安藤裕一 岸 卓巳 高嶋哲建 本多克己	安藤裕一 ★松下 健 高嶋哲建 本多克己	安藤裕一 ★松下 健 高嶋哲建 本多克己	安藤裕一 ★松下 健 高嶋哲建 本多克己	★浅見新子 岸 卓巳 高嶋哲建 本多克己	★浅見新子 岸 卓巳 高嶋哲建 本多克己	★木庭由香 春日大樹 齊藤宣彰 崎嶋雅規 土谷 幸	木庭由香 春日大樹 齊藤宣彰 崎嶋雅規 土谷 幸	木庭由香 春日大樹 齊藤宣彰 崎嶋雅規 土谷 幸	木庭由香 春日大樹 齊藤宣彰 崎嶋雅規 土谷 幸
監事	宇野美一 ★春日大樹 春日大樹 ★遠山 徳	宇野美一 ★春日大樹 春日大樹 ★遠山 徳	宇野美一 岸 卓巳 春日大樹 ★皆川恵子 竹中浩輔										
事務局	事務局	★春日大樹 春日大樹 ★遠山 徳	★春日大樹 春日大樹 ★遠山 徳	岸 卓巳 岸 卓巳 岸 卓巳									

法人化当初、岸理事のサポートには春日氏(学生・院生)  
2016から岸事務局長。サポート役には優秀な学生・院生  
2020から財務担当を齊藤理事が担う。しかしこロナ禍で...  
2022から春日事務局長。見直しを図るが...  
2024から「会費ペイ」導入。※Peatix導入は2021ごろ(?)  
2024~25は第6期理事会。年度末に理事改選(手続きは従来通り)

## II. 限定サロン=意見交換会

「これまで」「いま」を踏まえて、「これから」についての意見交換

テーマ① NPO サロン 2002 の財務構造

テーマ② NPO サロン 2002 の組織と運営

テーマ③ 月例サロンと公開シンポ

### ◆サロン in 富山・清水について（現状共有）

中塚：おなじみの人たちなので話の中身はわかっていると思います。今年度、サロン 2002 として何ができるかについて、総会内での報告のかたちで上記テーマ①②について問題提起をさせてもらいました。ここではテーマ③について意見交換したいと思います。

先ほどの続きで橋さん、「サロン in 富山」の見通しを話してもらえますか。

橋：先ほどのポスターをお見せます。「サロン in 富山」ということで、サロン 202 と NPO 法人富山スポーツコミュニケーションズとのコラボ、共催企画という形になりました。富山で毎週行われている「まちなか Dialog」というイベントとのコラボレーションです。部活動改革は中学の話が先行していますが、高校部活動にも影響が及んでいます。富山でも変化が起きています。私が委員長を務める富山県高体連研究部で、富山県の高校部活動について調査研究をしたので、その内容を披露し、さらには中塚先生のこれまでのご経験からお話しいただき、富山の皆さんと高校の部活動のあり方、富山という地域での高校部活動がどこへ向かっていくべきなのかについて語り合う場になればなということです。

富山スポーツコミュニケーションズの佐伯先生と打ち合わせをさせていただきました。7月 19 日(土)の 14 時から 17 時、会場は富山県民会館の 601 号室。24 人収容の会場です。富山の方で PR してそれぐらいの参加者を募っていきたいと思っています。サロンファミリーのオンライン参加はあります。概要はこんなところです。

中塚：この案内チラシを富山とサロンで共有しましょうということを佐伯さんと話しています。日時・会場などは定まっているので、すぐにでも HP と Peatix での告知と募集を開始したいところです。

熊谷さん、準備可能ですか？

熊谷：案内と詳細を送ってもらえば、掲載と募集を進めるようにします。内容の概要とか、ホームページに掲載できる、テキストの形になっているものを送ってほしいです。なければ、これをそのまま掲載することは可能です。

中塚：「まちなか Dialog」の案内をみて申し込む人は、指定のフォームから申し込むようになっています。「参加費 1,000 円、サロンファミリー無料」と書かれていますが、サロンファミリーは Peatix から申し込んでもらうようにしたいと思っていますが、そういう整理の仕方ってできます？

熊谷：いつものサロン通信の中で、「サロンファミリーはこちらから申し込んでください」とすれば大丈夫ではないでしょうか。

中塚：なるほど。中身としてはここにあることで、「高校部活動はどこへ向かっていくのか」という内容です。橘さんと佐伯さんと私の3人でオンライン MTG をした際も、部活動改革は中学の話としていろいろ出てくるけど、高校にも絶対影響は来るし、すでに影響はあるのだと。他人ごとではないのだというような話が出ていたと思います。結構面白い中身になるような気がします。

これが7月の「サロン in 富山」です。落としどころとしては、「部活動の地域“展開”は、従来の部活動を地域に“移行”するのではなく、あるべき姿を理解した上で地域の実情に応じて取り組むものである」ということですね。8月の「サロン in 清水」も同様ですし、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップで全国各地にリーグ環境を整備することを進めていますが、その考え方のベースにもなっていることです。

清水の宮城島さんとやり取りした中でほぼ確定してきた「サロン in 清水」の要項です。「部活動改革のゆくえをさぐる—静岡市の中学生年代のサッカー競技を中心に」です。ここでは中学校の部活動を中心に、部活動のゆくえをさぐる場を設けました。8月17日の日曜日です。その前日にエスパルスのホームゲームが横浜 F マリノスがあるので、それとセットで楽しめるとよいかなと思っています。「基調講演」というと少し大げさな気がしますが、私の方から「部活動改革の現在地」というお題で話をさせていただきます。ただの“移行”ではない、“部活動改革”なのだとということを冒頭お話しさせていただき、次に静岡市全体の話をどなたかにしてもらいます。宮城島さんは静岡市役所でそういうことにも精通されているので「僕がやってもいいよ」と言っています。そしてメインは、「清水区のサッカー競技における中学生年代の受け皿について」、プロジェクトチームを作つて具体的に検討されているので、担当の中村さんから示していただき、全体でディスカッションするという流れです。

これも「参加費 1,000 円、サロンファミリーは無料」で、この案内はいつもの Peatix でやってもらえばよいということです。この設定も熊谷さんの方でまたお願ひします。Peatix と HP 上げる写真は、宮城島さんに依頼しているところです。

7月と8月の通称「出張サロン」がこのように予定されていることを念頭に置いて、今年度の公開シンポジウム、そして月例サロンをどうするかについて、ざっくばらんに意見交換していきたいと思います。特に公開シンポジウムについては、今年度のシンポジウム②は12月に「賀川浩さんを語ろう」で決まっているのですが、①については2案あるので、ご意見いただければと思います。

### テーマ③ 2025年度の月例サロンと公開シンポ

#### ◆2025年度の公開シンポジウム(案)

- 2)12月20日(土)or21日(日) 桐陰会館「賀川浩さんを語ろう！」  
・多くの方々とともに、賀川浩さんのあゆみと功績を語りたい

- 1-1案)11月23日(日) 横陰会館「全人教育の場としての学校を語ろう(仮)」  
・「部活動で学んだことを語ろう」の継続として学校行事やHRで学んだことを語る  
・「Z世代」の特徴に触れながら、授業以外の諸活動の重要性を確認する  
※理事長の高校教員としての経験・知見を共有し、発信する！

- 1-2案)10～11月 千曲市「U-18FLCC10周年 キックオフシンポジウム」  
・第10回大会へ向けて、開催地(千曲市)の認知度と機運を高める  
・ユース年代のスポーツの現状と課題を共有する(東京、富山、長野からの報告)  
※この大会の意義をU-18フットサル、開催地元の関係者で共有し、発信する！

### テーマ③ 2025年度の月例サロンと公開シンポ

#### ◆2025年度の月例サロン(案)

- 4月17日 公開「スポーツ関連のカスハラ・不當要求～」 関秀忠  
5月29日 公開「スポーツクラブとコミュニティとデモクラシー」 張青山

- 6月14日 賛定「総会後の意見交換会」  
7月19日 サロン in 富山「部活動のゆくえをさぐる  
-富山県の高校部活動調査を中心に」★佐伯仁史、橋和徳、中塚

- 8月17日 サロン in 清水「部活動改革のゆくえをさぐる  
-静岡市の中学生年代のサッカー競技を中心に」★宮城島清也、★中村栄、中塚

- 8/19～26英蘭旅行 8/27～29体育学会 8/30(土)「ブカツカフェ」

- 9月某日 公開or限定(日時・会場・テーマ・演者未定)

- 10月or11月 公開シンポジウム①「U-18FLCCの10周年～」or「全人教育～」

- 12月20日or21日 公開シンポジウム②「賀川浩さんを語ろう！」

- 1月某日 賛定サロン「第10回U-18FLCCの総括と今後(仮)」

- 2月某日

- 3月某日 1/10-12 第10回U-18FLCC(千曲市)

- 11月～12月オンライン＆桐陰会館  
日本ビュール・ド・ケーブルタウンユースフォーラム

### ◆公開シンポジウムについて（意見交換）

茅野：ちょっとわからなかつたんですけど、シンポジウムの一つはこれでフィックスされているのですか。2案というのはどういうことでしょうか。もう1つのシンポジウムとの関連性をどう考えるかで悩んでるということでしょうか。

中塚：二つのシンポジウムを関連させようとは思っていません。「賀川浩さんを語ろう」は確定しています。それとは別に、もう1つのシンポジウムをどうするかということで、そこに2案あるということです。

茅野：開催日が接近しているのは、二つのシンポジウムを関連させる趣旨なのかなと思ったんです。そうではないですね。それにしてもかなり接近してますよね。大丈夫でしょうか。

中塚：1-1案だとするなら、11月23日(日)の桐陰会館は確保してあるので、そこでやればいいんですけど、1-2案だとするなら、U-18FLCC自体が1月上旬なので、10月から11月のどこかでやるのがよいでしょう。12月になってしまふと年末でドタバタするし、逆にあんまり早いとピンとこないですね。1-2案については明文化したのは初めてですが、10周年の節目をシンポジウムで取り上げてもいいんじゃないかという意見は、理事会でも何度か出ていたと思います。

ということで2案併記で考えてますが皆さんどうですか？

本多：いまの茅野さんの質問とも近いようなニュアンスですが、富山・清水というのがあるので、そのどちらかをシンポジウム扱いにしてもいいのかなという気もしています。もし千曲市で開くのなら、費用がかかってくると思いますが、富山・清水に行く費用を助成金でという考え方もできるのかなと思います。

土谷：全人教育と言いながら学校の現場にこだわるのは、イメージが湧かなかったです。2案の方がいいかなと思いました。

中塚：土谷さんは理事会でも、U-18フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年に向けたシンポジウムをやつたらいいんじゃないかっていう発言を何度もされましたよね。ちなみに千曲市の状況を言うと、以前「温泉街をスポーツで盛り上げよう」のシンポジウムを開いた観光会館の「GORORI」という和室は、10~11月は改修工事で使えないそうです。だけど会議スペースは旅館の中にもあるというようなことを、観光局の近藤さんが言っておられました。

土谷：続けて少し話をすると、U-18FLCC関連でもっとも大切な部分は、地域にリーグをいかに根付かせていくかということですよね。U-18FLCC関連のシンポジウムは、10周年だからということに限らず、各地で来年以降もやっていった方がいいんじゃないかと思います。出張サロンがそういう役目をするのだと思いますが。この前声をかけてサロンファミリーに入ってくれた野原さんは、淡路島の洲本市で、保育園や小学校でのスポーツプログラムを中心に活動されている方です。FC淡路のスタッフもされている野原さんも今後、U18世代の活性化には関心があるので、淡路島での出張サロンとかできるといいですね。

中塚：ありがとうございます。新入会された野原さんって、どんな方なのかなと思ってたんですよ。今年度はともかく、ずっと続いていくことなので、各地の人たちと交流するパイプ役になってくれたらいいですね。

1-1案「全人教育の場としての学校を語ろう（仮）」についても、僕はいつかやってみたいなと思っています。去年の「部活動で学んだことを語ろう」は、あえて「筑波大学附属高校蹴球部の近現代を中心に」と絞り込んだのですが、それが面白かった、できてよかったです。今回の案は、学校行事とかホームルームとか、つまり授業じゃない部分を取り上げたいというものです。うちの学校のことだけ取り上げていいものか。広がりに欠けるような気もしていますが、個人的にはメチャクチャやりたいし面白いと思うけど、公開シンポジウムになじむかどうかはわかりません。

おそらく橋さんは1案も2案も面白がってくれているのではと思いますが。

橋：そうですね、1案で土谷さんが「イメージが湧かない」とおっしゃるのはわかりますが、僕たち体育教師からすると、学校は勉強するところではあるんですが、勉強だけしている人はちょっとおかしいなど。教育の目的は人格形成です。授業などの勉強から学んでいくことはありますが、それだけだと歪んだ人間が育ってしまうんじゃないかと、最近もひしひしと感じています。特に感じたのは、東京大学ア式蹴球部主催のフェスティバルに昨年末、参加したときのことです。超優秀な学力をお持ちの学校が招待されているのですが、学校の方針かもしれません、挨拶ができない。サッカーチーム員だったらこういうときにはこのように行動する、みたいなことはしない。具体的に言うと、他のチームの指導者がゲームを見ている前を、ペちゃくちゃ喋りながら通り過ぎる。そういうのに気づけない。いい悪いは議論になるところですが、私たちの感覚からすると、そういうことも教えていくのが学校だというところがあります。ただの一例なんですが、いろんな場面を捉えて生徒の人格を高めていくのが学校教育場だと思います。

もう1つは、ちょっと趣旨から離れるかもしれません、今日もサッカーのU-18リーグの試合を午前中にやり、午後からここに参加しています。他校の先生たちと話をしていると、やっぱりいまぐらいの時期になると進学の話になり、今日も大阪の私立大学のリクルーターの方がゲームを見に来ておられました。サッカーのレベルを見て、あの子、うちの大学を選んでくれないかなと声掛けをする大学がとても増えています。「こういう条件だけどどう？」と。こうして進学が決まっていく。じゃあ勉強って何？伸ばしていくべき力って何？ みたいなところ、勉強かサッカーかの二択みたいな感じになっているのは、僕としては違和感があります。サッカーのこともそうだし、人間性というか、そういうところも測る術はなかなかないんですが。そういうところも見てはおられるんですが、最終的にはどういうゲームに出場したとか、登録されていたということだけで決まっていくのが違和感があります。その辺を大学のリクルートさんたちはどう考えているのかなとか。本来の教育としてあるべき姿はどんなことだろうと思っているところです。

ちょっと離れましたが、2案に関しては、10周年を盛り上げるためにもいいのではと思います。  
私の中でもまだイメージが湧かないのが正直なところです。すいません

笹原：1案にしても2案にしても、このテーマでシンポジウムをやって何を得たいのかというところですね。1案の方では、例えばホームルームで学んだことを学生や最近卒業した人が語るとかおもしろいと思います。しかし学園祭とか、そういうのを誰かが語り、そこでいろいろ議論することによって、例えばそういった活動を他の学校でもやってみようとか、そういうことを狙うのかな。ねらいがよくわからなかったということがあります。

2案は、先ほど土谷さんがおっしゃった通り、U-18FLCCの一番いいところは、リーグ戦を根付かせるところだと思うんです。それに焦点を当てた会にするのか、あるいはここに書いてあるように千曲市の認知度を高めるのか。かなり別の視点になっているように思ひます。ではどれに焦点を当てて話していくのだろうかと。例えば演者が3人いて、1人はリーグ戦について、1人は千曲市の魅力について、1人は例えば部活動改革についてやっちゃうと、分散してしまって目的がわからなくなるような印象を持ちました。僕としては、例えば2案にして、ユース年代でのリーグ戦を広めることに特化していくとよいのではと思いました。

中塚：ありがとうございます。まさにそのとおりで、このスライドを作りながら、笹原さんが言われたことを私も思っていました。せっかく「出張サロン」で富山や清水の話を聞き、こちらからも語りに行けるのだから、たとえば富山で何でうまくいってるのか、いまどんな課題があるのかというようなことを取り上げてもいいですよね。東京でも課題はたくさんあるんです。スケジュール問題。要するに多忙化です。高校生自体の多忙化にも触れながら、どのようにユース年代のスポーツ環境をつくりたいのかということをざくばらんにお披露目しあえるとよいかなど。部活動地域展開のタイムリーな話題も含めながら。そして、全国各地にこういう人たちがリーグチャンピオンズカップで千曲市に集まって来るんだということを千曲市の人々に改めて知ってもらう。そういう機会にもなればいい。それぐらいの幹事で開催地の認知度と機運を高めるということを少し入れたんです。

千曲市の認知度を他地域に対して高めるというのではなく、こういう重要な大会を千曲市でやっているということを千曲市の人々に知ってもらうという意味です。せっかく力を注いで地元の人々もやってくれているんだけど、知らない人は全然知らない。もったいないんですね。

どうでしょうか。う思いつきレベルでかまわないので、思ったことをどんどん出してもらえるとい

いんだけど。

土谷：わからない部分をお聞きするんですが、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップは、最初の頃は千曲市じゃなくて、3回目からでしたか。そこから千曲市で続いているのだと思いますが、今後も千曲市と不可分なものとして取り組んでいくものでしょうか。

中塚：流動的な要素はあります。本来は協会や連盟の主催でやってもらいたい全国大会ですが、まだ全国各地にユースリーグが広がっていない現状だと、協会とか連盟の主催事業にはなり得ない。そこでNPOの我々が主催しているわけです。言ってみたら、我々がつないでいるんです。だからいざれは手放すことになるだろうということは、我々も主催しながら思っているんです。ただその時に、千曲から離れるのかどうかというのはまた別問題です。連盟の主催事業になると、おそらく3年ぐらいの周期で全国を回ることになるんじゃないかなと思います。けどそうなったときにも、U-18FLCCとは別のU-18大会を、我々主催で千曲市でやり続けるのはありだと思います。だからそういう意味では千曲とは末永くお付き合いしていきたいということです。本多さんどうですか？

本多：そうですね。おっしゃった通りです。タイミングが見えないですけど、いずれ連盟・協会の大会に育つまで、我々で継続できたらという思いでいます。

中塚：橋さんにお聞きします。10~11月の頃は、サッカーの全国高校選手権予選が週末ごとにあって、それが終わったところでフットサルリーグが始まる。つまりずっと週末ごとに大会をやってるような感じですか？

橋：選手権の富山県決勝戦が11月8日（土）で、9日（日）には新人選がはじまります。その後、二学期の期末考査が入り、今年は12月からしかフットサルリーグができるないんじゃないかなと思っているところです。去年からですが、6チームリーグにすれば6日程、もしくは一日2試合こなすことができる日が一日あれば5日程。5日で4日程ぐらいあればリーグとしてはできるかなと思っているところです。

ただし、サッカーでは暑熱環境下での試合をしないために7~8月を外すことになっています。技術委員会の方からの方針です。なるべく7~8月にサッカーのリーグ戦を入れないとなると、選手権とリーグ戦との間の期間がなくなる感じになってきています。以前は2週ぐらいあけて選手権予選が始まっていたのですが、今はもうリーグ戦の最終節の翌週に選手権の一回戦が始まるような日程になってきています。7~8月があくのならそこでフットサルリーグを、とも思いますが、なかなかその期間にフットサルをしようという機運にはならず、後倒しにしていくしかないかなという感じです。リーグチャンピオンズカップとの兼ね合いを考えると、12月いっぱいに終わればいいかなという感じですが、富山の場合で言うと1~2月までリーグ戦をやることができればいいかなという感じです。

2回戦総当たりにするとすれば、リーグチャンピオンズカップまでの一巡目で順位を決め、さらにもう一巡することができるかなとか、いろいろと考えているところです。現状そんな感じです。

中塚：これまで各地域リーグの実状について、たとえば何チームでやっているのかなどざっくりとした紹介をしてもらってはいますが、実際に日程に落とし込んで、シーズンをどうしているのか、会場や審判はなど、具体的なところの紹介まではできていなかったと思います。それぞれの地域の状況に応じていろんな工夫をしていると思いますが、工夫ができないまま単なる総当たり戦、しかも3チームぐらいで「予選」をやってますみたいな感じになっているところもないとは言えない。そのあたりを第2案で、東京・富山ほか長野などからリアルなところを出し合いつこして、ユーススポーツの現状と課題を共有する場にするのはありだなあという気がしています。

橋：現状の共有は、これまで大会後の情報交換会などで行われていたとは思いますが、そこは情報交換会にとどまっているので、それを整理するのは意義があると思います。

富山も正直言うと、サロンで定義しているリーグ戦の条件のうち「3カ月以上」というのは満たしていない状態なので、心苦しいところではあるんですが....。

中塚：サッカーとフットサルのシーズンをどのように考えていくのかは、大きな課題だと思います。リーグ期間がシーズンとなるわけです、リーグ戦をやってくれと言っている以上、フットサルのシーズンをいつにするのかは、各地域の実情があるとしても、ある程度把握し、リードしていく必要があると思うんです。

熊本あたりは前期・後期制でやり、前期リーグのチャンピオンが出てくるようなつくりにしているんですよね。

橋：1月まで続けることも可能なんですが、1月ぐらいになると今度は県外へサッカーの遠征に行きますというチームがどんどん出てきます。次のサッカーシーズンに向けたプレシーズンという感じになっています。足並み揃えるのができればいいなと思うんですが....。

笹原：サッカーをやっている人がフットサルもやってるんですか？

橋：富山の場合は別の人という考え方には基本的にはできないですね。フットサルのみをやっている人は基本的に皆無なので、サッカーの人にフットサルをやってもらっているというのは変ですけど、フットサルも楽しんでもらえるような状況を作っています。そこでフットサルの魅力や効果を感じてくれたチームが、サッカーでも生徒を出してくれています。

中塚：このあたり地域差があると思うんですよね。それから長い目で見ると、もうすでにそうなっているけど子どもの数が減ってきていて。やはり工夫が必要なんです。本当はバレーやバスケアをやっている人たちの中にフットサルやりたい人もいるはずです。いろんなスポーツのシーズンを整理して、じゃあこのシーズンはフットサル、このシーズンはバスケみたいなことができるといい。当初サッカーのユースリーグを始めると言った頃はそういうのを考えていました。

笹原：ちなみに東京の DUO リーグでは、サッカーチームじゃない人が入ったりするんですか？

中塚：DUO リーグはどんどん真面目になってしまっていて。例えば以前認めていたオーバーエイジ 3 名までありという「特別枠」も、いまはダメじゃないかな。いま出てくるのは基本的にはサッカーチーム員ですね。競技団体マターになってくると登録の話とワンセットになってくるから、そうじゃない人が入り込む余地がだんだんなくなってくるわけです。

東京都内のフットサルの話で言うと、東京ではバリバリにフットサルやる子と。バリバリにサッカーやる子は別なんです。F リーグの下部組織では高校生年代のフットサルも力を入れて強化しています。一方で、高校のサッカーチームの人たちにもフットサルを体験させたいというのもあって、東京都サッカー協会 (TFA) フットサル委員会主催で都内完結型のフェスティバルを夏と冬に行ってます。ちょうど昨日あたり申込を締め切った大会は、希望チーム数が多い場合は、リーグに加盟していないところを優先することにしてみます。すると高体連のチームで、夏休みはどうせサッカーの試合ができるから、冷房の効いた体育館のワンデーフットサル大会に参加したいというところが結構出てきてるんです。本当に地域ごとに事情が違う。だからこの機会に、僕は東京都の現状と課題を整理して、皆さんと共有したいと思ってます。

どうでしょうか。いまのところ個人的には 2 案に傾いてるんだけど、1 案も面白いし、いずれはやりたいんだけどね。

関：1 案、2 案、どっちかっていう話じゃないんですけどいいですか。私、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップを現場で見たことないんです。オンラインでしか見たことないんです。10 周年だから今年は行こうかなと考えていました。通常、公開シンポジウムというと、東京にリアルで集まつたうえで行う内容を考えることになると思いますが、集まるべき場所は、特に東京にこだわる必要はないんじゃないかなと思います。

公開シンポジウムとは違うことになるかもしれません、「できる限り多くの人に千曲に行きませんか」という催しや促しがあってもいいのかなと思います。「10 周年だから、できるだけ行きませんか」というのをサロンの人に呼びかけて、あっちでリアルで集まって飲み会とか。どうせフットサルの試合はやってるわけだから、そこに子どもたちも大人も集まってるんで、その場で 10 分でも 20 分でもいいので、「サロン 2002 でこういうのやります」「こういう映像を作ります」というのを告知

してきましたという会でもいいのかなと。公開シンポジウムとはちょっと別の話で、前夜祭とか後夜祭になりますかね。サロンの人たちがリアルでこんなに集まるのは久しぶりですというのがあっていいのかなという気がします。

コンテンツはもう次の日に控えているわけです。ネットでフットサル雑誌を調べてみると、かなりいっぱい出て来るんです。そういうところに、特定非営利活動法人サロン 2002によるコンテンツを作つて金太郎飴みたいに売り込み、記事化してもらう。うちの大会はガスパールさんと土谷さんがご尽力された動画があります。せっかくですからこの機会にリンク貼り付けて、こういうのをやっています、記事にしてくださいというのをサロン 2002としてやっていいんじゃないでしょうか。「10周年なのでぜひ来てください」というのはあっていいと思います。

本多：違う考え方の話になりますけど、千曲市とのつながりに重きを置いて千曲市で開催することと、もう1つは、もともとこの大会の成り立ちとして U-18 フットサルリーグを全国でやってもらうということの2つあると思うんです。

後者の方で行くと、これまで「リーグとは」であったり「なぜリーグをするのか」ということであったり、ちゃんとできている人、できていない人の話、シンポジウムでも女子の立場でも月例サロンでもやってきて、紙でも発信しています。シンポジウムのネタとして何がいいかじゃなくて「各地にリーグを作らせるために」何をしたらいいのかということしていくと、リーグを作つてもらうためのノウハウ本なのかノウハウビデオなのか、ノウハウコンテンツみたいなものがあつていいのではないかと思います。いま若い入って、紙の文章を読まないし、とりあえず YouTube で見ていろんなノウハウを身につけていくのだと思います。ダメだった話じゃなくて、うまくいった話をノウハウ的にまとめてあげると。これだったら俺たちもできるよな、これやっぱり無理かなというように、直接のアクションにつながるようなことをしていってはどうかと思いました。シンポジウムでということではありませんけど、そういう方向性も大事だなと思いながらお話を聞いてました。

土谷：本多さんのいまの意見に共感しました。ガスパールが作ったビデオの中で中塚さんが語っていたのは、ボールが1個あればサッカーができるっていうことや、必要なのはゴールだよっていう話です。別にボールじゃなくてもリングでも何でもいいという話もしていたと思います。そういうた、ボールを蹴るという原初的な風景がある一方で、千曲市でやる公式な大会、フットサルリーグを各地でつくること、東京都ではこうとか富山ではこうっていうのが、なんかちょっと乖離して、運営のテクニカルな話になっていることが、フットサルやリーグ戦をやろうとすることへの敷居を高くしているような気がしていました。本多さんのいまの話はすっと入ってくるなど。シンポジウムもいいんですけど、地方にボール蹴りに行って、フットサルリーグを作る面白さとか、ゆたかなスポーツ環境をつくるゆたかさっていうのをまず伝えることが先な気もしました。

茅野：本多さんの意見や皆さんのお見にインスピアされました。10年経った大会の公開シンポジウムです。地域のFリーグやU-18 フットサルリーグがどれだけ進んだか。進まないのはなぜかっていうのを検証するようなシンポジウムがいいなと思いました。橋さんの話で、やっぱりまだ富山ではフットサルを専門的にやろうという高校生はいないんだと改めて認識しました。高校生リーグを作ろうとスタートして10年経つたいま、到達点を確認しながら、できなかつたところはどうすればできていくのかということを語り合うシンポジウム。10周年の到達点とこれから先を、リーグに着目して展望するのは大いにありだなと思いながら、本多さんと土谷さんのお話を聞いていました。

もう一言。僕も千曲へ行きたい、どっかで行かなきゃと思いながら、つい10年も経っちゃいました。近くにいい温泉があるので、ぜひ行きたいなと思っています。

関：やりましょう！

茅野：いやいや、これだけ地域に違いがあると思わなかつたですね。

中塚：そうですね。地域ごとに違うんです。交通の面も違うし、そもそも高校生の数が違います。

茅野：サッカーチームを作つて、その中でフットサル作ろうというんだったら、20~30人いなきやいけないでしょ。

中塚：では、とにかく「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ 10 周年」ということで、何かしらしよう。やっぱり千曲市で。サロンファミリーも集まろうぐらいの…。そういうんじゃない？

関：前にやらなきやいけないんですかね？ 当日じゃダメなんですか？

中塚：大会に関わっている人はしんどいですね。指導者の懇親会はやっているけど。

関：話の腰を折る趣旨じゃなかったんですけど。すみません。

橋：関さんがおっしゃられるように、大会自体を運営していく側と大会を楽しむ会が別動で動ければ可能だと思うんですが。

中塚：そうですね。思い起こせば、2013 年 3 月の公開シンポジウム「U-18 フットサルを語ろう！」は、大会の中日にやりましたね。名古屋のオーシャンアリーナのピッチ上に机と椅子を置いて。そこに集まってきた人たちであーだこーだ話し、そのままみんなで飲みに行き。もちろん来た人は試合も見ているわけですから。こういうのもやってやれないことはない。ただ大会当日は、やはりこの規模でいまやっている以上、ちょっとしんどいな。

では 10~11 月のどこかよさそうなタイミングで、千曲市の人たちとも連絡を取りながら何か考えてみましょうか。

茅野：大会期日とずらすのであれば、東京開催になりますかね。前夜祭・後夜祭でやるのなら千曲でしょうが、時期をずらすのなら東京の方が集まりやすいでしょうね。ファミリーのことを考えても。協会から誰かに話してもらうのであればなおさらですね。

中塚：11 月 23 日（日祝）の桐陰会館は取れています。都内でやるのは OK です。

土谷：NPO の事業として取り組まなければいけないといまでの話を聞いて思いました。本多さんや茅野さんの発言をまとめると、全国津々浦々でフットサルに関わってみたいとか、フットサルのリーグや、フットサル以外のスポーツのリーグを作つてみたい人にメッセージを届けたいですね。学校の部活動が地域に移行するタイミングでもあります。リーグを作るハウツーが、サロンから提示できると面白うだと思いました。そういうことに取り組む前提として、全国各地、1 つのスキームでリーグが作れるわけじゃなくて、津々浦々さまざまな成功や失敗や工夫があるっていうことは、サロンがこの U-18 フットサルリーグで培ってきたネットワークを使うことで、評価できる素材をキャッチできるんじゃないかなと思いました。

シンポジウムをやるなら、地域のリーグのあり方と、フットサルリーグチャンピオンズカップの 10 年間の事業や実績の評価に資するようなシンポジウムができるといいなと思いました。それは千曲じゃなくてもいいのかもしれません。

関さんとかがすごく楽しみにしている「フットサルリーグチャンピオンズカップをみんなで見に行こう」というのは、新しいムーブメントとしてサロン 2002 として取り組んでいいような気がします。見に行くことが楽しくなるような発信の仕方、温泉とか、そういったことを主催者としても発信していくいいのかもしれないですね。

シンポジウムと千曲に行こうというのを分けて考えた方がいいのかなと思いました。

関：同感です

中塚：わかりました。では 11 月 23 日の桐陰会館。ここで U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップのキックオフシンポジウムを行う。それは 10 年の歩みゆみを、検証とともにを行い、どのようにリーグを作つていったのか、それがノウハウになるのか何なのかよくわからないけど、中身は考えます。

せっかく富山、清水へ出向いて「出張サロン」の成果もあるわけだから、地域の実情もシンポジウムで出してもらい、10 年の検証と今後につなげていくとしましょう。

大会当日は「10 周年ツアー」をやりますか。ツアー募集。観光局と相談しながら考えていきます。

笹原：桐陰会館ではフットサルできるんですか？

中塚：いや、そこではできません。隣の体育館があいていればできるけど。

笹原：話を聞きながら考え思つたんですけど、日常的に週末にリーグ戦で試合をすることって実はユース年代ではできているんじゃないかなと。できていないのはむしろ大人じゃないかなと思いました。

ユース年代のリーグ戦を広めるのはとてもいいことなんだけど、大人も救済してあげたいなという気があります。

中塚：2月の公開サロンで台湾の話を聞いてうらやましいなと思いました。そうなんですよ。  
 橋さんがそろそろ出ないといけないみたいだけど、最後に一言。

橋：正直言って富山も今後どうやってリーグを続けていくか、より良い形にしていくかについてちょっとしり込みしているところがあります。何かというと、これまで何回も出場している VIENT が、クラブとして歴史を閉じることになった。そして去年出場した伏木高校も、学年の募集定員が 90 人のところ 60 人しか入らず、男子は 14 人。うち 8 人がサッカーチームですけど。地方はそういうことが当たり前に起こっています。参加してくれていたチームが消えていくという現状があります。この辺をどうしていくかというのは富山の課題なんですが。

私が勤務する富山中部高校も、今年の新入部員は 8 人でした。過去最少です。こういうことがひしひしと訪れてきています。いろんなことを工夫していかなきゃというところに来ています。

中塚：ありがとうございます。橋さんあと何年いられるの？

橋：富山中部高校ですか？ わからないです。県立高校なので異動はあるんです。すぐには訪れない気はします。できれば 30 年いたいところですが....  
 ではここで失礼いたします。ありがとうございます。

中塚：ではシンポジウムについては、11月 23 日の桐陰会館がせっかく取れているので、ここを生かした 2 案のシンポジウム。今日皆さんからいただいた意見を踏まえて、登壇者候補も含めて、私の方で考えてみたいなと思います。

このほか全体を通して、月例サロンのこと、メンバーのこと、財務のこと、事務局のこと、どんなことでもいいので、あと 10 分ぐらい、お気づきの点があれば言ってもらえばと思います。

## ◆その他

関：先ほどの 1 案は、今日のところはなくなったわけですが、あれだけの目的意識を持って富山や清水へ行くわけなので、その講演録みたいなものを外向きに、例えば「月刊体育科教育」に持っていくことを考えられないかなと思います。意識してお金に換えられないかということです。本人の手をなるべく動かさない形で。

中塚：すでにある、あるいは作ったものを出せないかということですね。

熊谷さん、ホームページのこと SNS の活用が前から出てましたけど、その後どうですか。

熊谷：SNS は、公開サロンの申し込みページを新たに公開したときだけ連携していて、それぐらいの活用しかできていないところです。サロンのコンテンツなり情報を公開していく契機になっていくところなんですけれども、リアルタイムで出ている情報を、「ただいま開催中」というようなことだけでも配信したり、もう少しやりようはあるかなと思います。ライブでやるところもあるかもしれません、そもそも公開サロン自体がズームで公開しているので、申し込みしていれば見られます。私自身が公開サロンに行けたり行けなかったりなので、まめに配信することができていない状況です。

中塚：ありがとうございます。あとはどうですか？

笹原：昔、税金を均等割りで 7 万円取られていた気がするんですけど、いま税金は発生していない

のですか？

中塚：収益事業をやっていないという届を、松下顧問が毎年してくれており、大丈夫です。

笹原：年7万円ですから大きいですよね。

雑談ですが、私の妹が中学校の体育の先生で、いま横浜市の中学の校長先生をやっています。部活動改革というか地域移行の話をすると、なんか抵抗するんですね。抵抗するというか、「もういや、横浜じゃできない」って言って考えもしないんです。だから公開サロンの話を振って、ちょっとみてみろと言つてみようと思います。

中塚：地域によっては、もうすでに中学校の部活動を廃止することが決まっているところがある一方で、熊本市では地域移行そのものをやめるという判断をしています。地域ごとに結論を出してくればいいと思うんですよね。

余談ですが、いまは地域「移行」という言い方を地域「展開」に変えています。「移行」というと部活動のいいところも悪いところも全部地域に移してしまうように捉えられるけど、やはり部活動改革が先にあるんです。部活動を地域に展開、あるいは連携する際に、改めるべき部分は改めるということですね。改めるべきはどの部分なのか。“理念”についての話をしっかりせなアカンと思います。富山と清水で、そんな話をさせてもらおうと準備しています。

今度のシンポジウムでも、リーグというのは試合ができればそれでいいというものではなく、目指すべきところを、綺麗ごとかもしれないけど言っておかないといかんと思っています。

本多：余談になりますけど、神戸と芦屋は来年から部活はやりませんという話になっているんですが、全然体制が整っていません。セミナーを聞きに行っても、こちらはどうすればいいのかという話を聞くために行っているのに、「いや、もうこんなん無理なんですね」みたいな話をする人がたくさん出てきて話をしています。現場としてはそういう空気なんだと思いますね。

関：「無理」とは、どっち方面に「無理」なんですか？ 地域移行が無理なんですか？

本多：神戸市も受け入れ団体が手を挙げていますけど、本当にできるの、と思われるところが手を挙げている状態です。

笹原：受け皿がないと言つていましたね。

茅野：教職員の働き方改革を考えたら部活動はやめて、地域へと。いまそれでふと思ったけど本多さん、阪神淡路大震災の後、兵庫は全中学校で総合型クラブを行政指導で全部立ち上げましたよね。

本多：小学校ですね。各小学校に総合型を置くっていうことでやったんですけど、

茅野：全校で作りましたよね。それが受け皿になるので部活動をやめる決断判断をしたわけではないのですか。

本多：それは逆に、失敗事例になっているところがあります。そこは十分に機能しておらず、具体的な絵が見えないまま、具体的な受け皿も形も見えずに、やらざるを得ないからやっている。

茅野：総合型地域スポーツクラブの初期みたいな感じですね。全国で三つか五つできた段階で、一気に全国やるぞって文科省は言ったんだけど。、

中塚：来週の金曜日に「全国部活動地域展開カンファレンス」っていうのがあって、参加費無料でオンラインでも参加できるので申し込みました。株式会社ユーフォリアというところが主催です。民間で部活動の地域展開をサポートしますというところもいくつか出てきてるみたいですが、その実態はどんなものかというのを見ようと思って申し込みました。

中塚：じゃあ一応これぐらいでおしまいにしましょうかね。えーとこの後オンラインだったら残れ

る人ってどれぐらいする？

笹原：今日はちょっと失礼させてもらいます。あ、そう。

土谷：僕もちょっと失礼します。

熊谷：すみません。こちらで失礼します。

中塚：じゃあ我々もここを出て近場で打ち上げをします。どうもありがとうございました。  
以上（赤坂見附の「赤坂亭」での懇親会に続く）